

第23回 地球環境再生植林フォーラム



～カンボジア (プノンペン・コンポンチャム・アンコールワット)～



第23回地球環境再生植林フォーラムはカンボジアで実施します。

植林活動を通じて、現代の環境問題を考え、壮大な歴史を重ねて豊かな文化を生み出した人々の、心の世界にも触れられるよう、プノンペン、コンポンチャム、シェムリアップの3カ所を訪れるツアーを計画しました。

現地でのお世話役は、オイスカの技術研修生 OB とオイスカの海外協力事業、特に環境教育の専門家として活躍している春日智実さん(長野県出身、現在タイ国駐在)です。

オイスカ・カンボジアでは「子供の森計画」を中心に環境教育と実践活動を展開しています。50年ほど前の激動の時代を乗り越え、これから国土開発にしっかり取組もうとするカンボジアの人々は何事にも積極的です。自分の生活水準を向上のために働くだけでなく、広い視野で、地球環境までも見渡せる人々が増えてきています。日本からの皆さんと共に活動できることを楽しみに待っていてくれます。

ご参加くださいますように、ご案内します。

2015年7月30日(木)～8月4日(火)

企画団体: オイスカ静岡県支部/担当: 内山恵美子、亀山近幸

内山: 090-5604-3866 亀山: 090-7690-8766

FAX: 053-463-0316

旅行実施: 東海トラベル/担当: 田代 剛

所在地: 〒432-8036 浜松市中区東伊場2-9-16

TEL: 053-456-3550 FAX: 053-454-3374

【日 程】

日	日付	発着地・滞在地	時 間	交通機関	内 容	食
1	7/30 (木)	中部国際空港 中部国際空港発 ホーチミン 着 ホーチミン 発 プノンペン 着	08:00 10:15 13:45 16:05 16:50	各自 VN341 VN920 専用バス	中部国際空港集合時間(場所は説明会時にお知らせ) 空路、ベトナム航空にてホーチミンへ 着後、乗継ぎ 空路、ベトナム航空にてプノンペンへ 着後、入国手続きしてホテルへ。 ホテルチェックイン ＜プノンペン泊＞	× 機 ○
2	7/31 (金)	プノンペン 発 コンポンチャム着	08:30 11:30 12:00 13:30 18:30	専用バス	プノンペンからコンポンチャムへ移動 コンポンチャム着 昼食(オイスカ・カンボジアスタッフから活動説明) 「子供の森計画」支援学校訪問、記念植樹、交流会 夕食 ＜コンポンチャム泊＞	○ ○ ○ ○ ○
3	8/01 (土)	コンポンチャム コンポンチャム発 プノンペン 着	08:30 12:00 14:00 17:30 18:30	専用バス	「子供の森計画」支援学校で植林活動 昼食会(オイスカ カンボジア総局会員等との懇談) コンポンチャムからプノンペンへ移動 プノンペン着 夕食 プノンペン市内散策 ＜プノンペン泊＞	○ ○ ○ ○ ○
4	8/02 (日)	プノンペン プノンペン 発 シェムリアップ着	08:00 10:30 11:30 12:00 午後 夕刻	専用バス 航空機 専用バス	ホテル出発 空路、シェムリアップへ 着後、昼食 アンコールワット観光 アンコールワットに沈む夕日の情景見学 ＜シェムリアップ泊＞	○ ○ ○ ○ ○
5	8/03 (月)	シェムリアップ シェムリアップ発 ハノイ 着	早朝 11:25 12:00 午後 20:25 22:05	専用バス VN834	アンコールワット夜明りの情景見学 アンコールトム観光とタブローム寺院 南大門・バイヨン寺院 象のテラス見学 昼食 オールド・マーケットへ(散策、買い物) 空路、ベトナム航空にてハノイへ 着後、乗継ぎ ＜機内泊＞	○ ○ ○ ○ ○ ○
6	8/04 (火)	ハノイ 発 中部国際空港着	01:15 06:55	VN346	空路、ベトナム航空にて中部国際空港へ 着後、入国手続き終了し解散	機

※ 航空会社や現地諸事情により、スケジュールや内容が変更になる場合があります。

【募集内容】

- 募集人員：25名（最少催行人員15名） ■ 添乗員：全行程同行し、お世話いたします。
- 参加資格：15歳以上の健康な男女
- パスポート：各自で取得してください。尚、既得者は残存有効期間が2016年2月4日までは必要です。
- 参加費用：一般 203,000円 学生 173,000円（オイスカから教育助成3万円）
※参加費用は2名1室使用のお一人様の金額です。
※一人部屋希望追加代金：21,000円（4泊）
- 申込締切日：2015年6月15日（月）※但し、募集人員に達し次第、締め切ります。
- 事前旅行説明会：2015年7月12日（日）13時30分より オイスカ高校会議室

【オイスカとカンボジア】

1961年10月6日、オイスカは静岡県熱海市で産声を上げました。第二次世界大戦後、ヨーロッパやアメリカの植民地から独立を果たしたアジア、アフリカ、中近東18カ国から460名が集まり、「新しい世界建設の主役になるのだ。」との熱気が設立の会場にあふれ、『時代の訪れ』が感じられました。その後、オイスカの組織はアジアへ、アフリカへ、中近東へ、太平洋地域へと年を追うごとに広まってきました。我が国における民間外交のさきがけでもありました。

カンボジアとのオイスカの結び付きは、1970年代のはじめになります。駐日カンボジア大使がオイスカ本部（東京）を訪問されて、「国つくりのために、青年を教育して欲しい。」と要請され、技術研修生として、日本の生産現場での実務を学ぶ青年たちがやってきました。いずれも優秀な人たちでした。ところが、彼らの研修期間中に、本国に革命がおこりました。クメールルージュという過激な政治グループがカンボジアを占拠しました。彼ら研修生は前政権の支援で来日した人達ですから、研修期間が終了しても帰国できません。日本に残る人、カナダなどフランス語圏に移住していく人とチリジリになりました。その後、現在のフンセン氏が首相になって、ようやく今のような国になりました。

長い内乱状態の中で、オイスカを知る人はいなくなりましたが、2000年頃からシンガポール人の会員がプノンペンで仕事することになったのをきっかけに、カンボジアの人たちに働きかけ、オイスカ・カンボジアを立ち上げ、人材の育成、環境教育等を中心に活動を再開しました。現地の会員と研修生OBの熱心な活動ぶりに、徐々にオイスカの理念と行動が理解されてきています。これからオイスカは本腰を入れて、カンボジアへの協力を進めていくことにしています。

【現在のカンボジア情報】 日本の外務省ホームページから引用

- 1.面積 18.1万平方キロメートル（日本の約2分の1弱） 2.人口 1,470万人（2013年政府統計）
 3.首都 プノンペン 4.民族 カンボジア人（クメール人）が90%とされている。
 5.言語 カンボジア語 6.宗教 仏教（一部少数民族はイスラム教）

【日本とカンボジアの関係】

(1) 歴史

日本は、1980年代末よりカンボジア和平への積極的関与を開始し、1992年～1993年にはPKO法に基づき日本初の要員派遣を実施した。以来、カンボジアの復興、内政安定、国造りに対する積極的な支援を行ってきている。2009年は、日メコン交流年であり、日本とカンボジアを含むメコン諸国との間で様々な交流事業を行い、同年10月、カンボジアはシムリアップにおいて第2回日メコン外相会議を主催した。

2010年は日本カンボジア友好条約調印55周年にあたり、同年5月に、日本は、ノロドム・シハモニ国王を国賓として訪日招待した。

(2) 経済関係

2007年6月のフン・セン首相の訪日の際、安倍総理との間で「投資の自由化、保護及び促進に関する日本国とカンボジア王国との間の協定」（日カンボジア投資協定）の署名が行われ、2008年7月末に発効した。この協定は、投資の保護規定に加え、投資の自由化規定を盛り込んだものであり、韓国、ベトナムとの投資協定やマレーシア等との経済連携協定（EPA）の投資章とほぼ同内容の自由度の高い協定となっており、同協定により日本からカンボジアへの投資が活発化することが期待される。

(3) 経済協力

日本は、カンボジアにとって最大の援助供与国であり、2009年度までの援助実績は、円借款312.91億円、無償資金協力1,383.11億円、技術協力554.97億円である。

日本の対カンボジア援助は、2002年に策定された対カンボジア国別援助計画において、持続的な経済成長、貧困対策を中心とし、ハード及びソフトの両面にバランスのとれた支援を行うこととしている。具体的な援助重点4分野は、1) 持続的な経済成長と安定した社会の実現、2) 社会的弱者支援、3) グローバリゼーションへの対応、4) ASEAN諸国との格差是正のための支援である。

(4) 文化関係

1994年よりユネスコ文化遺産保存日本信託基金により日本国政府アンコール遺跡救済チーム（JSA）を通じてアンコール遺跡の保存修復活動を実施中である。第1期及び第2期事業期間中、延べ700名を超える日本人専門家が現地に派遣され、約200名のカンボジア人スタッフと共同で保存修復活動に従事した。2005年より第3期事業を実施中（6か年計画）。

また、フランスと共にアンコール遺跡救済国際調整委員会の共同議長国として関係国間の会合を毎年開催している。